様式C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年　６月　１日現在

機関番号：３２６３６
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2010
課題番号：１９５２０２５８
研究課題名（和文）　トマス・フッカーとコネチカット植民地に関する研究

研究課題名（英文）　Thomas Hooker and Connecticut

研究代表者
小倉　いずみ（OGURA　IZUMI）
大東文化大学・法学部・教授
研究者番号：００１８５５６３

研究成果の概要（和文）：本研究の成果は二つあり、第一に、新大陸のアメリカでコネチカット植民地がいかに創設されたかを解明し、第二にトマス・フッカーの生涯と思想を解説した。コネチカット創設者のフッカーは、英国、オランダ、ボストン、ハートフォードと次々に移動したが、宗教者として正統派の会衆主義の教義を確立し、政治家として民主主義的なコネチカット基本法の制定に尽力した。本研究は思想家・宗教者としてのフッカーを、日本で初めて解明した。

研究成果の概要（英文）：The project of Thomas Hooker and Connecticut achieved two purposes: first, it explored how the Connecticut plantation was established and secondly, it explicated Hooker's life and his works on Congregational church. Hooker was born in England, but was forced to exile to Holland to practice non-conformity against Church of England. He endured the hard life in the new world and founded the town of Hartford at Connecticut Valley. He preached sermons which support democracy and established the polity of Congregational churches, the most innovative Protestant sect, and inspired the ideas of the Fundamental Orders of Connecticut, the first written constitution in America. The final report of the project includes papers which analyze Warwick Patent, its comparison with Massachusetts charter, and Hooker's religious ideas and works.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	900,000	270,000	1,170,000
２００８年度	700,000	210,000	910,000
２００９年度	600,000	180,000	780,000
２０１０年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総　計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学
キーワード：トマス・フッカー、『教会規律の概要』、ハートフォード、コネチカット基本法、勅許状、国際研究者交流、国際情報交換、アメリカ合衆国

１．研究開始当初の背景

アメリカの植民地時代研究は未開拓の部分が多い。ピューリタニズムの概念は、アメリカ文学の中で扱われることがあるが、個々の文献や牧師を扱う研究はほとんどなされていない。小倉は平成 12 年度（2001）に完成した基盤研究（C）で「ジョン・コットンとアメリカのピューリタニズム思想に関する研究」を行い、平成 15 年度にその成果を科学研究費学術図書『ジョン・コットンとピ

ューリタニズム』(2004) で出版した。
　トマス・フッカーの伝記も、英文の文献で二、三冊が出版されているだけである。その有名な伝記はサージャント・ブッシュ著 *The Life and Times of Thomas Hooker* である。小倉は平成 15 年度から 18 年度に行った科学研究費補助金基盤研究（B）でブッシュを海外共同研究者としたが、ブッシュは 2003 年に死去したため、結局フッカーの研究の部分は未完のままで終わった。その時の研究成果報告書『ピューリタニズムの生成と継承に関する研究』は、フッカーのオランダ滞在とボストンでの生活を一部扱っている。本研究はその未完の部分を解明し、さらにコネチカット植民地の創設を歴史的に解明することを目的とした。
　トマス・フッカーはジョン・コットンと並んで植民地創設期の偉大な指導者である。アメリカの西漸運動の先駆けと言われるフッカーのコネチカット植民地創設は、コットンとのライバル意識を避けて新天地を求めた結果であるが、その思想は自由な平等・人権を重視した民主主義の具体化であった。1639 年のコネチカット基本法は権力の集中を避けて、選挙による植民地総会議の召集を定めており、マサチューセッツ湾植民地のように執政官に拒否権を与えておらず、特権を認めていない。多くの指導者を輩出した 1630 年代に、ハーバード大学が存在するケンブリッジを出て、新たにハートフォードを創ったフッカーの意思の強さを探ることによって、ジョン・コットンと対比しながら、フッカーの生涯を研究することは大きな意義があった。

２．研究の目的
本研究には二つの目的があった。第一にコネチカット植民地がどのように創設されたかを歴史的に解明することであり、第二にその創設者であるトマス・フッカーの生涯と思想を分析することである。

(1)コネチカット渓谷は隣接するオランダ領ニュー・アムステルダムとの領土争いがあり、同じ英国領植民地であるマサチューセッツ湾植民地やプリマス植民地、ロード・アイランド植民地にはさまれていた。フッカーは、現在のハーバード大学の敷地内にケンブリッジ教会を設立したが、1636 年に手狭なボストンを離れて、約 150 キロ離れたコネチカット川流域にあるハートフォードに移住した。彼は「ウォリック・パテント」Warwick Patent と呼ばれる土地開発許可書をもとに、コネチカット植民地を創設した。このパテントとマサチューセッツ湾植民地の「勅許状」royal charter を比較し、国家の威信をかけた新大陸での領土獲得の意図を解説する。

(2)植民地創設者のフッカーは英国、オランダ、ボストン、ハートフォードと次々に移動したが、移動した土地それぞれで思想的リーダーとなった。柔軟性あふれる思考と精神的な強靭さを持つフッカーは、宗教者として正統派の会衆主義の教義を確立し、時にはその思想を変貌させつつ、新しいコネチカット植民地を創設した。フッカーは 1648 年のケンブリッジ綱領が確定する前に死去したが、この綱領はフッカーの遺作『教会規律の概要』*A Survey of the Summe of Church-Discipline* (1648)をベースにしていると言われる。生涯最後の 400 ページの大作は彼の思想の集大成であり、この分析によってフッカーの神学思想を明らかにする。本研究は政治家・思想家・宗教者としてのフッカーを、多面的な視点から解明することを目的とする。

３．研究の方法
研究は、資料の収集とその分析、さらにアメリカ合衆国での現地調査を基にした。資料はハーバード大学ワイドナー図書館と同大学神学部専門図書館でフッカーの原典を収集した。また原典がリプリント版で入手できる場合は、図書として購入した。ニューヨーク公立図書館とコネチカット州立図書館、ハートフォードの古文書館と美術館において、原典と地図、フッカーに関係する肖像画や図版を収集した。ハートフォードに現地調査に行った際は、コネチカット川沿いのフッカーの所有地を確認し、ハートフォード第一教会の写真撮影を行ない、フッカーの墓地とハートフォード創設者のオベリスクを撮影した。またハーバード大学のデヴィッド・ホールに会い、東京講演の打ち合わせを行った。小倉の研究は、フッカーに関連する歴史と時代の観点から、研究方法を以下の三点に分類した。

(1)トマス・フッカーがアメリカに渡航する以前の亡命生活と、アメリカ入植以後のコネチカット植民地建設について研究した。またコネチカット植民地については、フッカーが来る前にコネチカット川を開拓した人々、たとえば最初の総督となった John Winthrop, Jr.、それを引き継いだ総督の John Haynes、フッカーの同僚だった Samuel Skelton、ニューヘイブン植民地の創設者の Theophilus Eaton などの人々によるコネチカット植民地創設への貢献について調査した。

(2)歴史的事件としては、コネチカットの最初の土地の所有権とされるウォリック・パテント、セイブルック砦の建設、1637 年のピーコット戦争、1639 年のコネチカット基本法について詳細に解説した。またコネチカットと

の相違を解説するため、マサチューセッツ湾植民地の勅許状も分析した。

(3)フッカーの原典に関しては、『教会規律の概要』を始めとして、*Thomas Hooker: Writings in England and Holland, 1626-1633* (1975)に収められた文書の分析を行った。『教会規律の概要』 に関しては、会衆主義の教義、教会の入会資格、牧師の選任の方法、半途契約などを詳細に論じた。小倉はフッカーがオランダに亡命していた時に書かれた「ジョン・ペイジェットの 20 個の質問とフッカーの回答」が、会衆主義の教義に大きな影響を及ぼしていると考えたため、これを解明した。

４．研究成果

本研究は、アメリカ合衆国コネチカット州ハートフォードの創設の歴史的意義とトマス・フッカーの思想を分析することを目的とした。研究成果は、238ページから成る成果報告書を作成した。また海外共同研究者であるハーバード大学のデヴィッド・ホール教授を二度招聘し、本研究を公開した。ホール先生の講演によって、多くのアメリカ植民地時代の研究者が集まり、討議する機会を提供した。研究成果を以下の五点に要約する。

(1)英文資料に関して、ニューイングランド評議会の勅許状（チャーター）のもとで、ウォリック伯爵に与えられた勅許状（パテント）を調査し、植民地事業の開発許可書を分析した。またオランダのニュー・アムステルダムとの勢力争いを検討しつつ、セイブルック砦の建設とハートフォード創設の経緯について資料収集を行った。フッカーに関係する文献としては、コネチカット基本法、ハートフォード説教、『教会規律の概要』を分析するため、英文原文を収集した。

(2)海外出張に関して、4年間の研究期間中、毎年夏期休暇期間中にボストンとニューヨークに行き、資料を収集した。ハーバード大学のホール先生にも毎年会い、アドバイスをいただいた。さらに2010年8月にハートフォードに出張し、現地調査を行なった。ハートフォード第一教会、Ancient Burying Ground 墓地において、フッカーの墓、サミュエル・ストーンの墓を確認し、撮影した。

(3)本研究は、アメリカ合衆国のハーバード大学神学部教授のデヴィッド・ホール先生を海外共同研究者としており、ホール先生を東京に招聘し、講演会を主催した。本研究の補助金により、旅費、宿泊費、雑費など招聘に関わるすべての費用を支払った。以下はホール先生が2009年1月8日から1月21日まで東京で行った4回の講演の題目である。（英語、通訳なし）

1月10日　初期アメリカ学会「トマス・フッカーとコネチカット植民地」

1月13日　東京大学アジア太平洋研究センター「アメリカの宗教と公共政策」

1月14日　学習院大学文学部「キャサリン・マリア・セジウィックと文学」

1月15日　上智大学文学部「キャサリン・マリア・セジウィックと文学」

すべての講演は、多くの聴衆を集め、活発な質疑応答が英語で行われた。また小倉は毎年夏休みにハーバード大学で資料集を行ない、ホール先生と研究の打ち合わせをした。

(4)ホール先生は2010年9月8日から21日まで再び来日し、講演を行なった。講演等は東京で4回行われ、この他に東北大学グローバルCOEにおいて講演が行なわれた。小倉は講演会すべてに同行した。なお、これらの講演会は和田守科学研究費が主催し、大東文化大学で行なわれた講演のみ小倉いずみ科学研究費が共催した。（英語、通訳なし）

9月11日（土）大東文化大学信濃町校舎において講演会「アメリカ革命における宗教の影響」その後明治記念館で懇親会を開催した。

9月13日（月）国際基督教大学「リベラルアーツ教育と文学教育」

9月14日（火）和洋女子大学「アメリカ文学とハーバード大学」

9月15日（水）東京大学「アメリカ植民地時代の宗教と女性」

9月18日（土）東北大学において講演会「アメリカ植民地時代の宗教と女性」その後仙台国際ホテルで懇親会を開催した。（東北大学グローバルCOEおよび日本アメリカ文学会東北支部と共催）

(5)2011年3月に全頁238ページから成る本研究の研究成果報告書を出版した。内容は以下の通りである。

小倉いずみの論文「トマス・フッカーとコネチカット植民地」と翻訳「キリスト教徒の慈愛のひな型」（pp. 48-224）

林以知郎「航路は違えられて」―― 大西洋両岸的視野から読むFenimore Cooperの海洋ロマンス」（pp. 1-21）

竹内美佳子「スチュアート朝とピューリタニズム――Thomas Hookerの受難時代」（pp. 22-34）

David D. Hall, “Thomas Hooker and the Making of Governments in Early New England” (pp. 35-47)
白川恵子「バロウズ牧師父子の説教」(pp. 225-238)

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計　17 件)

①白川恵子 “The American Bald Eagle and the Bird Woman: Early America’s Nation Building and Its Native American Policy.”『同志社大学英語英文学研究』第 88 号、1-57.　2011 年（査読無）

②小倉いずみ「Warwick Patent (1631)からトマス・フッカー『教会規律の概要』(1648)までのコネチカット」『初期アメリカ学会ニューズレター』第 61 号、1-4 頁。2010 年（査読無）

③小倉いずみ「Hartford への移住をめぐる Thomas Hooker の意図」『日本英文学会第 82 回大会 Proceedings』11-13 頁。2010 年（査読無）

④小倉いずみ（書評）入子文子・林以知郎編著『独立の時代――アメリカ古典文学は語る』『ヘンリー・ソロー研究論集』第 36 号、77-80 頁。2010 年（査読無）

⑤林以知郎「亡霊と痕跡―クーパーの Lionel Lincoln とスパイ・アンドレ伝承」『同志社アメリカ研究』、第 46 号、35 - 60 頁。2010 年（査読無）

⑥竹内美佳子「ラルフ・エリスンの『ジューンティーンス』 ― リンカーンへのエレジー」、*Seijo English Monographs*, No. 42, Special Number, 139-64 頁。2010 年（査読無）

⑦小倉いずみ「コネチカット植民地の創設とトマス・フッカー」科学研究費基盤研究(B)による研究成果報告書『アメリカ合衆国憲法と政教分離に関する研究』、1-67 頁。2009 年（査読無）

⑧小倉いずみ「トマス・フッカーとコネチカット植民地の創設」『詩と散文』第 83 号（永田書房）、48-62 頁。2009 年（査読無）

⑨小倉いずみ「アメリカ植民地時代の文献について」『詩と散文』第 83 号（永田書房）、44-47 頁。2009 年　（査読無）

⑩小倉いずみ「ラルフ・ワルド・エマソンと奴隷解放運動」科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書『ジョン・ブラウンの屍を越えて――南北戦争とその時代』、15-37 頁、および「エマソンと黒人奴隷制に関する年表」77-83 頁。2008 年（査読無）

⑪林以知郎「祝祭と憑在―建国期アメリカ文化と異人たちの帰還」『北海道アメリカ文学』第 25 号 1-15 頁。2008 年（査読有）

⑫竹内美佳子「ラルフ・エリスンのジャズ論」『慶應義塾大学日吉紀要　言語・文化・コミュニケーション』第 40 号、229-243 頁。2008 年（査読無）

⑬白川恵子「自伝をパロディーする―George Thompson/Greenhorn の技/擬法」『英語・英米文学』(慶應義塾大学日吉紀要) 第 52 号、39-58 頁。2008 年（査読無）

⑭小倉いずみ「英国領北アメリカ植民地の創設と勅許状」『大東文化大学紀要』第 45 号（大東文化大学)、175-192 頁。2007 年（査読無）

⑮小倉いずみ「アメリカ先住民とピーコット戦争」科学研究費補助金基盤研究(C)による研究成果報告書『メルヴィルの小説にみる先住民表象の虚構と事実』、81-120 頁。2007 年（査読無）

⑯林以知郎「James Fenimore Cooper と起源の感覚―1820 年代世代の自己意識的なアメリカニズム」『アメリカニズムの多角的研究』『同志社アメリカ研究別冊　17 号』、7-19 頁。2007 年（査読無）

⑰竹内美佳子「リチャード・ライトとアフリカ ― 故郷喪失者の遡航」『慶應義塾大学商学部創立五十周年記念日吉論文集』慶應義塾大学出版会、229-39 頁。2007 年（査読無）

〔学会発表〕(計　13 件)

①竹内美佳子「ソローとエリスン ― 未だ知られざる国へ」、日本ソロー学会 2010 年度全国大会シンポジウム、2010 年 10 月 8 日、青山学院大学

②白川恵子「ルイザ・メイ・オルコットの煽情物語―奴隷制・人種表象を中心に」日本ソロー学会、2010 年度全国大会、2010 年 10 月 8 日、青山学院大学

③小倉いずみ「Warwick Patent (1631)からトマス・フッカー『教会規律の概要』(1648)までのコネチカット」初期アメリカ学会第 59 回例会、2010 年 7 月 31 日、成城ホール

④小倉いずみ「Hartford への移住をめぐる Thomas Hooker の意図」日本英文学会第 82 回大会、2010 年 5 月 29 日、神戸大学

⑤小倉いずみ「コネチカット基本法にいたる政治と宗教」和田守科学研究費研究合宿。焼津グランドホテル。2010 年 3 月 7 日

⑥竹内美佳子「見えない存在の音楽 ――Ralph Ellison の Juneteenth」第 48 回アメリカ文学会全国大会、2009 年 10 月 10 日、秋田大学

⑦白川恵子「遺産相続の物語―George Lippard の都市犯罪ミステリ *The Empire City* (1849) と *New York: Its Upper Ten and Lower Million* (1553)」関西アメリカ文学会例会、2009 年 7 月 11 日、京都外国語大学

⑧小倉いずみ「ハートフォードの創設とトマ

ス・フッカー」第55回九州アメリカ文学会大会、2009年5月9日、琉球大学
⑨小倉いずみ（講演）「ラルフ・エマソンとアメリカの理念――国家の使命と自己信頼」明治学院大学文学部英文学科・アメリカ文学コース主催。2009年1月23日
⑩林以知郎「祝祭と憑在－建国期アメリカ文化と異人たちの帰還」日本アメリカ文学会北海道支部、2008年12月8日、北星学園大学
⑪白川恵子「メイソン・ロック・ウィームズの『ワシントン伝』再考」日本英文学会第80回全国大会、2008年5月24日、広島大学
⑫小倉いずみ「奴隷解放運動における思想家Emersonの立場」日本アメリカ文学会第46回全国大会、2007年 10月13日、広島経済大学
⑬小倉いずみ「エマソンと黒人奴隷制」第53回九州アメリカ文学会大会シンポジウム「ジョン・ブラウンの屍を越えて――南北戦争とその時代」2007年5月12日、九州大学

〔図書〕（計　7件）
①小倉いずみ編著、林以知郎、白川恵子、竹内美佳子、David D. Hall『トマス・フッカーとコネチカット植民地に関する研究』日本学術振興会科学研究費基盤研究(C)（課題番号19520258）による研究成果報告書。本研究の最終報告書。1-238, i-vii頁。2011年
②小倉いずみ『アメリカ文学と戦争』成美堂。第1章「植民地戦争とアメリカ文学」及び第2章「アンダーヒルと『アメリカからのニュース』」を担当、7-47頁。2010年
③白川恵子『バード・イメージ―鳥のアメリカ文学』金星堂。「アメリカン・イーグルとバード・ウーマン―初期アメリカ文学の国家形成と先住民政策」を執筆、17-42頁。2010年
④林以知郎、入子文子共編『独立の時代―アメリカ古典文学は語る』世界思想社。「『開拓者たち』と家計譜の書き換え―上機嫌な時代の自己意識的なアメリカニズム―」59-82頁を執筆。2009年
⑤白川恵子『独立の時代―アメリカ古典文学は語る』世界思想社。「売れる偉勲、憂うる遺訓―ウィームズの『ワシントン伝』再考」を執筆、29-58頁。2009年
⑥白川恵子共訳、松本昇、清水菜穂監訳　ヘンリー・ルイス・ゲイツ・ジュニア著、『シグニファイング・モンキー――もの騙る猿／アフロ・アメリカン文学批評理論』 南雲堂フェニックス、担当：「はじめに」「序章」、7-29頁。2009年
⑦小倉いずみ『英語文学事典』ミネルヴァ書房、総ページ829頁のうち13項目を担当 2007年

〔その他〕上記雑誌論文⑨のwebページ
http://www2.daito.ac.jp/jp/uploads/library/1226621583_D_B_08_05.pdf

６．研究組織

(1)研究代表者
小倉　いずみ（OGURA IZUMI）
大東文化大学・法学部・教授
研究者番号：00185563

(2)研究分担者
林　以知郎（HAYASHI ICHIRO）
同志社大学・文学部・教授
研究者番号：90097858

白川　恵子（SHIRAKAWA KEIKO）
同志社大学・文学部・准教授
研究者番号：10388035

竹内　美佳子（TAKEUCHI MIKAKO）
慶応義塾大学・商学部・准教授
研究者番号：00227000